

# Asia Indicators

発表日: 2024 年9月 20 日(金)

## オーストラリアの労働市場に依然ひっ迫感 (Asia Weekly(9/14~9/20))

～非正規雇用を中心に堅調な動きが続き、労働需給はなおタイトさが意識される展開～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/14(土)	(中国)8月鉱工業生産(前年比)	+4.5%	+4.8%	+5.1%
	8月小売売上高(前年比)	+2.1%	+2.5%	+2.7%
	8月固定資産投資(年初来前年比)	+3.4%	+3.5%	+3.6%
9/17(火)	(インドネシア)8月輸出(前年比)	+7.13%	+3.83%	+6.60%
	8月輸入(前年比)	+9.46%	+8.15%	+11.07%
9/18(水)	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	6.00%	6.25%	6.25%
9/19(木)	(ニュージーランド)4-6月実質GDP(前年比)	▲0.5%	▲0.5%	+0.5%
	(オーストラリア)8月失業率(季調済)	4.2%	4.2%	4.2%
	(マレーシア)8月輸出(前年比)	+12.1%	+11.8%	+12.3%
	8月輸入(前年比)	+26.2%	+21.2%	+25.4%
	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	2.000%	2.000%	2.000%

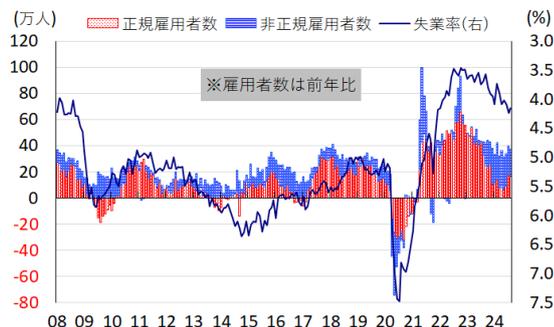
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [オーストラリア]～雇用環境に変化の兆しも、労働市場は依然としてひっ迫感が意識されやすい展開が続く～

19日に発表された8月の失業率(季調済)は4.2%となり、前月(4.2%)から2ヶ月連続の横這いで推移している。ただし、失業者数は前月比▲1.0万人と前月(同+2.6万人)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、雇用形態別では非正規雇用に対する求職者数(同▲0.3万人)のみならず、正規雇用に対する求職者数(同▲0.7万人)もともに減少している。雇用者数は前月比+4.7万人と前月(同+4.9万人)から5ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きが続いているものの、雇用形態別では非正規雇用者数(同+5.1万人)が拡大している一方、正規雇用者数(同▲0.3万人)は4ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ている。地域別では、第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州や、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州のほか、鉱物資源関連産業の盛んな西オーストラリア州などで堅調な動きが確認される一方、これまで雇用拡大をけん引してきた最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州で頭打ちの動きが確認されるなど、雇用を取り巻く環境に変化の兆しが出ている可能性がある。ただし、労働力人口は前月比+3.7万人と前月(同+7.5万人)からペースこそ鈍化するも8ヶ月連続で拡大しており、労働市場への参入意欲は依然として堅調な様子がうかがえるほか、こうした動きを反映して労働参加率も67.1%と前月(67.1%)から横這いとなるなど歴史的な高水準で推移する展開が続いている。足下の景気は頭打ちの様相を一段と強める動きをみせているものの、雇用を

取り巻く環境については引き続き底堅さがうかがえる。

図1 AU 雇用環境の推移

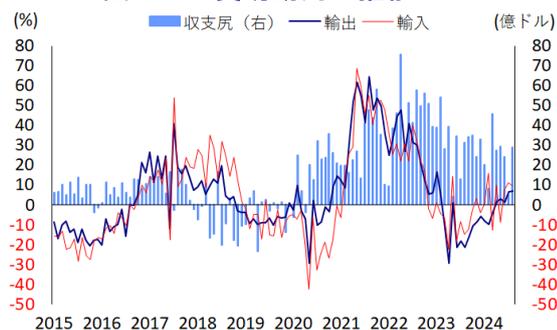


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [インドネシア]～前年比はともにもプラスも、輸出入双方で頭打ちが確認される展開ながら貿易黒字幅は拡大～

17日に発表された8月の輸出額は前年同月比+7.13%となり、前月(同+6.60%)から伸びが加速している。しかし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じているなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、農産品や製造業関連、エネルギー以外の資源関連の輸出には底堅さがうかがえる一方、国際原油価格が頭打ちの動きを強めたことも影響して原油や石油製品、天然ガス関連の輸出に下押し圧力が掛かっており、輸出全体の重石になっている。一方の輸入額は前年同月比+9.46%となり、前月(同+11.07%)から伸びが鈍化している。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。財別でも、国際原油価格の頭打ちの動きを反映して原油や石油製品関連の輸入額に下押し圧力が掛かっているほか、これら以外の輸入も下振れするなど全般的に頭打ちしている。結果、貿易収支は+29.00億ドルと前月(+5.01億ドル)から黒字幅が拡大している。

図2 ID 貿易動向の推移

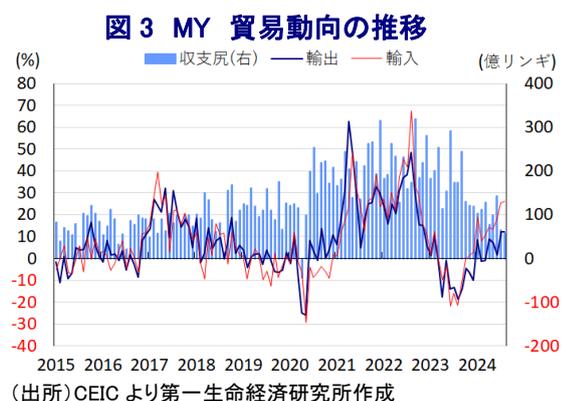


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～前年比では輸出入ともにプラスも、輸出は頭打ちの動きを強める一方で輸入は底入れしている～

19日に発表された8月の輸出額は前年同月比+12.1%となり、前月(同+12.3%)からわずかに伸びが鈍化している。前月比も▲1.1%と前月(同+12.3%)に大きく拡大した反動も重なり2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。国・地域別では、米国向けに堅調な動きがみられるほか、中国向けにも底堅さがうか

がえるものの、ASEANなど周辺国向けの鈍化が輸出全体の足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比+26.2%となり、前月（同+25.4%）から伸びが加速している。前月比も+1.1%と前月（同+10.5%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出と対照的な動きをみせている。消費財関連の輸入は下振れしている一方、中間財関連や資本財関連の輸入の堅調さが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は+56.68億リングと前月（+64.01億リング）から黒字幅が縮小している。



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。